

平成24年度

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [採択時公表]

機関名	同志社大学	機関番号	34310
1. 全体責任者 (学長)	<small>※ 共同申請のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、申請を取りまとめる大学 (連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。</small> (ふりがな) 氏名・職名 八田 英二 (同志社大学長・高等研究教育機構長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) たばた のぶひろ 氏名・職名 田端 信廣 (同志社大学高等研究教育機構副機構長)		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) ないとう まさのり 氏名・職名 内藤 正典 (同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科長/教授)		
4. 申請類型	L <複合領域型(多文化共生社会)>		
5.	プログラム名称	グローバル・リソース・マネジメント	
	英語名称	Global Resource Management	
	副題		
6. 授与する博士學位分野・名称	博士(グローバル社会研究、アメリカ研究、現代アジア研究)、博士(工学)、博士(理学)、博士(神学)、博士(一神教研究)、博士(哲学)、博士(社会福祉学)、博士(産業関係学)、博士(法学)、博士(経済学)、博士(商学)、博士(政策科学)、博士(学術) 付記する名称: グローバル・リソース・マネジメント		
7. 主要分科	(① 共生・排除) (② 地域研究) (③ 電気電子工学) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
	哲学、史学、人文地理学、法学、政治学、経済学、経営学、社会学、教育学、ジェンダー、応用物理学・工学基礎、機械工学、材料工学、地球惑星科学、土木工学、総合工学		
8. 主要細目	(①) (②) (③) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入		
	共生・排除、地域研究、電力工学・電力変換・電気機器、電子・電気材料工学、電子デバイス・電子機器、通信・ネットワーク工学、計測工学、哲学・倫理学、宗教学、思想史、東洋史、人文地理学、基礎法学、公法学、国際法学、政治学、国際関係論、経済政策、経営学、社会学、社会福祉学、教育社会学、ジェンダー、応用物理学一般、薄膜・表面界面物性、熱工学、無機材料・物性、地質学、水工学、地球・資源システム工学、エネルギー学		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	<u>グローバル・スタディーズ研究科グローバル・スタディーズ専攻、理工学研究科情報工学専攻、理工学研究科電気電子工学専攻、理工学研究科機械工学専攻、理工学研究科応用化学専攻、理工学研究科数理環境科学専攻、神学研究科神学専攻、文学研究科哲学専攻、社会学研究科社会福祉学専攻、社会学研究科産業関係学専攻、法学研究科公法学専攻、経済学研究科経済政策専攻(博士課程(後期))、経済学研究科理論経済学専攻(博士課程(前期))、経済学研究科応用経済学専攻(博士課程(前期))、商学研究科商学専攻、総合政策科学研究科総合政策科学専攻</u>		
10. 連合大学院又は共同教育課程による申請(構想による申請も含む)の場合、その別 ※ 該当する場合には○を記入			
連合大学院		共同教育課程	
11. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)			
大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所、株式会社三菱総合研究所海外事業研究センター、株式会社堀場製作所、日新電機株式会社技術開発研究所			

(機関名:同志社大学 申請類型:複合領域型(多文化共生社会) プログラム名称:グローバル・リソース・マネジメント)

15. プログラム担当者一覧

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成25年度における役割)
(プログラム責任者) 田端 信廣	タハタ ノブヒロ	63	大学院文学研究科哲学専攻・教授	思想史、哲学、倫理学 文学修士	事業統括及び文理融合によるグローバル・リソース・マネジメントプログラムの実施責任、企画開発
(プログラムコーディネーター) 内藤 正典	ナイトウ マサリ	55	大学院グローバル・スタディーズ研究科グローバル・スタディーズ専攻・研究科長 教授	イスラムと西欧の共生、中東地域研究 博士(社会学)	プログラムの統括 多文化共生論、イスラムとの共生担当
小山田 英治	オヤマダ エイジ	49	大学院グローバル・スタディーズ研究科グローバル・スタディーズ専攻・教授	国際関係論 博士(学術)	アシスタント・プログラム・コーディネータ(人社系統 統括・文理融合プログラム担当) ガバナンス論・開発政治学担当
雨谷 昭弘	アマニ アキヒロ	68	大学院理工学研究科電気電子工学専攻・教授	電力工学、インフラ工学 Ph.D.(工学)	アシスタント・プログラム・コーディネータ(理工系統 統括・文理融合プログラム担当) インフラ工学担当
位田 隆一	イタ リュウイチ	64	大学院グローバル・スタディーズ研究科グローバル・スタディーズ専攻・教授	国際生命倫理、国際法学 D.E.A.	国際機関との連携担当 共生のための倫理と法担当
中西 久枝	ナカニシ ヒサエ	53	大学院グローバル・スタディーズ研究科グローバル・スタディーズ専攻・教授	国際関係論、国際協力論 Ph.D. in History	国際連携(中東・中央アジア)担当 紛争抑止と平和構築担当
岡野 八代	オカノ ヤヨ	44	大学院グローバル・スタディーズ研究科グローバル・スタディーズ専攻・教授	ジェンダー、新領域法 学、基礎法学 博士(政治学)	国際機関・国際NGOとの連携、海外とのインターンシップ 担当 共生とジェンダー・正義論担当
加藤 千洋	カトウ チヒロ	64	大学院グローバル・スタディーズ研究科グローバル・スタディーズ専攻・教授	現代中国社会研究、中国 研究 経済学修士	産学連携、キャリア形成、広報担当 現代中国政治、日中関係担当
巖 善平	イワン センハイ	49	大学院グローバル・スタディーズ研究科グローバル・スタディーズ専攻・教授	経済政策 農学博士	中国経済の展望とグローバル化担当
峯 陽一	ミネ ヨウイチ	50	大学院グローバル・スタディーズ研究科グローバル・スタディーズ専攻・教授	経済政策(含 経済事情) 経済学修士	グローバル・リーダー養成担当 人間の安全保障担当
見原 礼子	ミハラ レイコ	33	大学院グローバル・スタディーズ研究科グローバル・スタディーズ専攻・助教	比較教育学、教育社会学 博士(社会学)	キャリア形成担当 国際連携のロジスティクス担当
橋本 雅文	ハシモト マサフミ	55	大学院理工学研究科情報工学専攻・教授	ロボティクス・IoT 工学、センシング情報学 工学博士	産学連携教育部門統括 インフラセンシング科学担当
長岡 直人	ナガオカ ナオト	54	大学院理工学研究科電気電子工学専攻・教授	電力工学、電気機器工学 博士(工学)	理系広報担当 計算機科学、数値解析学、電力インフラ科学・環境学 担当
辻 幹男	ツジ ミキオ	58	大学院理工学研究科電気電子工学専攻・教授	電子デバイス、電子機器、電磁波 工学 工学博士	理工学分野の戦略的研究開発推進学担当 超高周波科学・工学、電磁波環境学担当
藤原 耕二	フジハラ コウジ	52	大学院理工学研究科電気電子工学専攻・教授	電力工学、電気機器工学 博士(工学)	先進的電力変換学、複合電気機器学、社会イン フラ用電気機器学担当
笹岡 秀一	ササオカ ヒデイチ	63	大学院理工学研究科電気電子工学専攻・教授	通信・ネットワーク工学 博士(工学)	通信インフラ科学、通信方式学、通信セキュリティ 科学担当
和田 元	ワタ モト	58	大学院理工学研究科電気電子工学専攻・教授	薄膜・表面界面物性、核融合学、プラズマ 科学 Ph.D.	国際連携(ASEAN諸国)担当 原子力発電技術、核融合発電、先進発電科学担当
吉門 進三	ヨシカド シンゾウ	59	大学院理工学研究科電気電子工学専攻・教授	電子・電気材料工学 博士(工学)	電気電子材料科学、希少資源管理学、高効率発 電・蓄電工学担当
加藤 利次	カトウ トシジ	55	大学院理工学研究科電気電子工学専攻・教授	電力工学、電気機器工学 工学博士	電気回路学、高効率電気制御学、高信頼性イン フラ用制御システム学担当
松川 真美	マツカワ マミ	48	大学院理工学研究科電気電子工学専攻・教授	計測工学、応用物理学一般 博士(工学)	国際連携(欧州)担当 医用電子技術インフラ、超音波工学担当
千田 二郎	センタ ジロウ	56	大学院理工学研究科機械工学専攻・教授	噴霧燃焼工学、エネルギー デザイン 工学博士	環境エネルギー科学、分散型発電システム、エ ネルギーインフラコスト担当
稲葉 稔	イハバ ミル	50	大学院理工学研究科応用化学専攻・教授	電気化学、無機材料 物性 博士(工学)	先進的電気化学エネルギー変換学、資源材料科 学、材料マネジメント科学担当
盛満 正嗣	モリミツ マサツグ	46	大学院理工学研究科数理環境科学専攻・教授	物理化学、無機化学、無機材料 博士(工学)	電気化学表面プロセス、化学エネルギー工学、 インフラ環境保全化学担当
林田 明	ハヤシタ アキラ	58	大学院理工学研究科数理環境科学専攻・教授	地質学、古地磁学、岩石 磁気学 理学博士	国際連携(東アジア)担当 地球環境科学、自然資源マネジメント科学担当
小原 克博	コハラ カツヒロ	46	大学院神学研究科神学専攻・教授	宗教学、神学、哲学・倫理学 博士(神学)	宗教間の共生と政治担当

(機関名:同志社大学 申請類型:複合領域型(多文化共生社会) プログラム名称:グローバル・リソース・マネジメント)

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成25年度における役割)
工藤 和男	クドウ カズオ	61	大学院文学研究科哲学専攻・教授	哲学・倫理学、 思想史 博士(哲学)	共生のための倫理担当
埋橋 孝文	ウスハシ タカミ	60	大学院社会学研究科社会福祉学専攻・教授	社会福祉学、 社会政策 博士(経済学)	福祉国家と共生担当
木原 活信	キハラ カツノブ	46	大学院社会学研究科社会福祉学専攻・教授	社会福祉学、ソー シャルワーク 博士(社会福祉学)	福祉国家と共生担当
浦坂 純子	ウラサカ ジュンコ	42	大学院社会学研究科産業関係学専攻・教授	経済政策 博士(経済学)	共生のための経済政策担当
新井 京	アライ キョウ	41	大学院法学研究科公法学専攻・教授	国際法学 修士(法学)	国際公法と紛争抑止担当
濱 真一郎	ハマ シンイチロウ	43	大学院法学研究科公法学専攻・教授	基礎法学、法哲 学、法思想史 博士(法学)	共生のための法思想担当
八木 匡	ヤギ タカシ	53	大学院経済学研究科経済政策専攻(博士課程(後期))、 同理論経済学専攻(博士課程(前期))、同応用経済学専 攻(博士課程(前期))・教授	財政学・金融論、 公共投資理論 博士(経済学)	共生のための公共経済学担当
亀田 尚己	カメダ ナオキ	68	大学院商学研究科商学専攻・教授	国際ビジネスコミュニ ケーション論、国際商取引 論 博士(商学)	共生のためのコミュニケーション担当
風間 規男	カザマ ノリオ	48	大学院総合政策科学研究科総合政策科学専攻・教 授	政治学 博士(政治学)	共生のための政策ネットワーク担当
川浦 昭彦	カワウラ アキヒコ	52	大学院総合政策科学研究科総合政策科学専攻・教 授	経済政策 博士(経済学)	共生のための経済政策と民主化担当
月村 太郎	ツキムラ タロウ	52	大学院総合政策科学研究科総合政策科学専攻・教 授	国際関係論 法学士	国際政治と多文化共生担当
浜 矩子	ハマ ノリコ	59	大学院ビジネス研究科ビジネス専攻・教授	国際経済のマクロ 分析 経済学士	産学連携・広報担当 国際経済のマクロ分析担当
渡邊 紹裕	ワタナベ シュウユウ	58	大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球 環境学研究所・副所長、教授	農業土木学、 農村計画学 農学博士	共生のための地球環境論担当
宇佐美 暁	ウサミ アキ	44	株式会社三菱総合研究所海外事業研究センター・副セン ター長、国際政策推進グループリーダー・主席研究員/同 志社大学院グローバル・スタディーズ研究科・嘱託講 師	外交・安全保障、 現代アジア・中国 法学修士	国際産学連携担当
嶋田 晴行	シマダ ハルユキ	44	独立行政法人国際協力機構(JICA)南アジア部南ア ジア第2課・企画役/同志社大学大学院グローバ ル・スタディーズ研究科・嘱託講師	脆弱国の経済・ 社会発展論 修士(社会学)	国際協力連携担当 アフガニスタン復興支援担当
石田 耕三	イシダ コウゾウ	67	株式会社堀場製作所・取締役副社長/同志社大学 大学院理工学研究科連携大学院・客員教授	熱力学、噴霧燃焼 工学、半導体工学 工学博士	産学連携に基づく実務教育担当 計測化学、環境保全学、電力消費量抑制担当
松原 克夫	マツハラ キクフ	58	日新電機株式会社 技術開発研究所・技師長/同 志社大学院大学理工学研究科連携大学院・客員教 授	電力・高電圧 機器開発 博士(工学)	産学連携に基づく実務教育担当 電力・高電圧機器、電力インフラ学、電力資源最適化担 当

(機関名:同志社大学 申請類型:複合領域型(多文化共生社会) プログラム名称:グローバル・リソース・マネジメント)

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

【概要】本プログラムは、人間生活の基盤となる資源・エネルギー科学と、地球規模課題を扱うグローバル・スタディーズの融合を基に「グローバル・リソース・マネジメント」という文理融合の学際領域を設定し、博士前期・後期課程一貫プログラムを構成する。強靱な精神と高度な倫理観をもって、今日、最も困難な状況にある国から、新興国までをパートナーとして活躍していくグローバル・リーダーの養成を目指すものである。本プログラムが養成する人材像とは、①災害、紛争、貧困など、生存が危機に瀕する過酷な状況にある人々に寄り添い、共に学ぶことによって困難を打開する志を持ち、②そのために必要な人文・社会科学と自然科学の諸領域を統合知として修得する学徒であり、③文理融合の知を基に、「公正」のなんたるかを意識しつつ、宗教間、民族間の共生を志向し、地球的課題としての困難の発生を抑止し、また発生した困難からの復興と発展に取り組む。④同時に、困難から脱して、発展の途上にある新興国において発展の持続性と格差の縮小に取り組むことで、これらの諸国と戦略的パートナーシップを築いていく。今日、東アジア、東南アジア、中東、中央アジアは経済成長の過程にあり、G20 諸国および、それに次ぐ成長を実現している諸国は数多い。博士学位を有する高度専門職業人のキャリアパスとして、これらの地域をターゲットとするところに本プログラムの特色があるが、その先には、困難から発展への道筋を自ら経験することにより、その知見と経験を将来の日本の発展へとつなげるという目標をもつ。

【特色】現代世界の閉塞的状況を突破するためには、人間生活の物質的基盤（インフラストラクチュア）、社会的基盤、精神的基盤の3領域を統合的に扱う新領域の創造が必要である。そのために、同志社大学が長年にわたって高度な研究・教育実績を有する資源・エネルギーに関わる自然科学・理工学的知の体系と、多文化共生に関わる人文・社会科学的知の体系を統合した文理融合による博士課程プログラムを創造する。自然科学・理工学系からは、電力、エネルギー、情報通信、交通、水資源管理の領域がプログラムに参加する。人文・社会科学系からは国際的に研究をリードする多文化共生、人間の安全保障、紛争抑止、平和構築、開発学、政策科学、社会学、社会福祉学等の領域がプログラムに参加する。中でも、イスラームとの共生をグローバルな多文化共生実現の課題として重視する点が特色である。

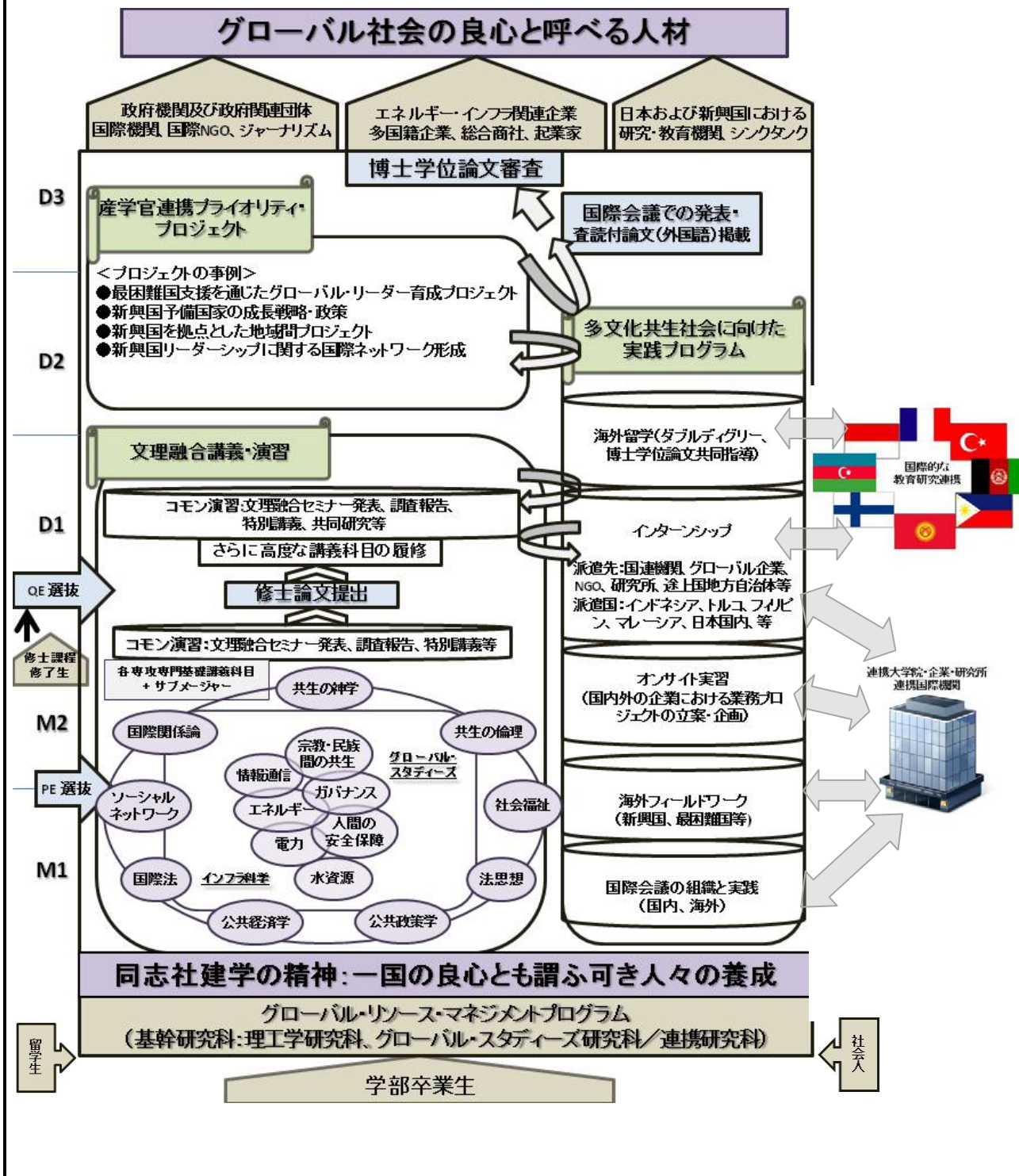
産・官・学にわたるグローバル・リーダーの養成には、広範な学外連携による博士学位プログラムの実践が不可欠である。留学・国際インターンシップにより在学中に繰り返し連携機関への派遣を行うことにより、高度専門職業人の養成を前提とした頭脳循環を活発化させる。世界の先端的研究水準の研究機関とはエコール・セントラル国立理工科学院連合（フランス）とのダブル・ディグリー制度等で実績を有し、新興国との間には国立フィリピン大学等多数の連携機関と留学・インターンシップ協定をもち、最困難国との間には、JICA との連携により、アフガニスタンへの高等教育支援を本プログラムの中に位置づける。産業界との間には、堀場製作所や三菱総合研究所を始め多数の先端企業とのあいだに連携大学院を構成し、国内外でのインターンシップ実現の基盤は整っている。グローバル・リーダー養成に不可欠の国際機関との連携は、UNESCO や UNDP との連携関係を活用する。「京都議定書」によって広く地球上の共生に貢献した京都の特性を活かし、人間文化研究機構総合地球環境学研究所との間に機関連携を締結しており、京都から世界にむけて「共生」の新たなモデルを発信するという世界的意義をもつ。

【優位性】心の平安は多文化共生社会の基である。この点において、同志社大学がキリスト教のみならずイスラーム、ユダヤ教を含めた統合的一神教学際研究を 21 世紀 COE プログラム及び私立大学戦略的研究基盤形成支援事業を基に高度化させたことの優位性は際立っている。本学の創設者、新島 襄は 1884(元治元)年、国禁を犯して函館から海外に脱出した。進取の気風を尊重する校風の原点はここにある。同時に彼は、一国の良心たる人材の養成を本学設立の旨意に掲げている。それゆえ、本プログラムは先進諸国における成功者（リーダー）養成機関を模倣しない。建学の精神を基盤とし、現代世界にとって喫緊の課題である異文化との摩擦や衝突を回避するための学知と資源・エネルギーに関する学知を修得することで、人類社会に平和と安寧を実現することこそ、私学としての同志社大学が本プログラムを申請することの主旨である。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

同志社大学グローバル・リソース・マネジメントプログラムの概念図



機 関 名	同志社大学
プログラム名称	グローバル・リソース・マネジメント
<p>[採択理由]</p> <p>「良心教育」という建学の精神を活かし、グローバル性・リーダー性についての高邁な観点から発想された中軸的なプログラムとして、大学全体として推進していく決意と準備が整っている。人文・社会科学と資源・エネルギー・インフラ科学の2つを融合した明確な文理融合型のグローバルリーダー養成のプログラムという特色は評価できる。宗教・民族間の多文化共生に関する研究を担うグローバル・スタディーズ(社会科学領域)と理工学研究科のインフラストラクチュア科学(資源・エネルギー工学)という、既に実績のある研究資源を基礎にプログラムを立ち上げることができるので、実効性が高い。</p> <p>新興国と最困難国をターゲットにし、最も困難で窮迫的状况にある国で活躍できる人材の育成を目指す点、すでに国際的なネットワークも構築している点が評価でき、発展途上国からの留学生のニーズも高いことが予想される。</p> <p>大国の理論を押し付けるのではなく、新興国や困難国の人々と対等に寄り添うグローバルリーダー養成という目的は明確で独自性がある。特に同志社大学の強みであるイスラム圏研究を活かし、我が国の対応が不足している地域においてインフラを支える人材を文理融合で育成しようとする点も評価される。</p> <p>学位プログラム・カリキュラムの内容が明確で、オンサイト実習、国内・海外インターンシップ、プレリミナリー試験、クオリファイニング試験、PhD. Candidacy制度が整っており、プログラム評価委員会、グローバル産学官アドバイザー・ボートなどの教育プログラムの質を評価・点検する仕組みも整備されている。教育プログラムとしての完成度も高い。</p>	